



1月の園だより

令和5年1月4日

目黒区立八雲保育園 園長

新しい年をご家族とともに迎えられたことと思います。

園庭に出て準備体操を終えると、待ってましたとばかりに一目散に走りだす子どもたちの姿がありました。固定遊具やタイヤを巧みによけながら縦横無尽に走る様子は、まさに『子どもは風の子』です。昔からわらべ歌の歌詞として歌われている『子どもは風の子』の対になる言葉は『じじばば（大人は）火の子』だそうです。「部屋にばかりいないで外に出ておいでよ」と寒風の中でも元気に遊ぶ子どもたちに背中を押されるような清々しい気持ちで、一步外に出て冬の澄んだ空を見上げてみたいと思った新年です。

「ね うし とら う たつ み うま ひつじ～」と3・4歳児クラスが12支の歌を歌っていました。歌うことが好きで得意な4歳児の声に引っ張られるように、3歳児も覚えた干支をリズムに乗せて楽しんでいます。子どもたちは意外にも自分の干支をよく知っていて「ボクはね、〇さいで□□どし」と話しています。年齢も干支も、自分を表す様々なものを誇らしく思い“大好きな自分”を感じているようです。自己主張したり、泣いたり笑ったり、忙しく感情表出しながら子どもたちがその子らしくいられる毎日を大切にしていきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

今月の行事予定

新年おめでとう会

乳児お楽しみ会（0・1・2歳児クラス）

中旬 身体計測 避難訓練

来月の行事予定

節分

中旬 身体計測 避難訓練



クラス懇談会

0歳児クラス 16:30~17:30

1歳児クラス

2歳児クラス

3歳児クラス

4歳児クラス

16:30~18:00



～お正月はやっぱり伝承遊び～

3・4・5歳児クラスでは、毎年冬になると昔から親しまれているすごろく・コマ・けん玉等の遊びを楽しみます。4・5歳児数名ですごろくをしていると、3歳児クラスの子どもたちが周りに集まってきました。サイコロを振りたくてたまらない様子で、隙を見つけるとサッと手にして振っています。4・5歳児は怒ることなく3歳児が満足するまで見守ると、再びすごろくを楽しんでいます。

コマは、手回しゴマと紐ゴマの2種類を用意しました。手回しゴマには各自のお気に入りがあり、逆さに回してみたり、どちらが長い時間回るか友達と競っています。けん玉は難しく、5歳児でもなかなかうまくいきません。膝でリズムを取り、諦めず何度も挑戦して玉が大皿に乗ると「見て、できたよ」と嬉しそうです。

好きな遊びはそれぞれ違いますが、伝承遊びを通して友達とやり取りしたり、異年齢で関わったりして楽しんでいます。



お兄さん・お姉さんってすごいなあ

～クラスを超えた関わり～

～0・1・2歳児クラス～



園庭で2歳児が星型の容器に砂を入れ、落ち葉や木の実を飾ってケーキを作っていました。その様子を見ていた1歳児がケーキに興味を示し、触ろうとしました。保育士が「ケーキが欲しいのね。お姉さんに聞いてみよう」と声をかけると左右の手の平を重ね、保育士に向けて“ちょうだい”の仕草をしました。2歳児はこのやり取りを聞いていたのでしょう。星型のケーキをもう一つ作り、その子の目の前にそっと置いたので「ケーキを作ってくれたのね、ありがとう。〇〇ちゃん 嬉しそうだよ」と言うと微笑んでいました。

保育士と2歳児がケーキを食べる真似をしていると、0歳児がじっと見ていました。保育士が「〇〇ちゃんも“美味しそうだなあ”って見ているよ」と伝えると2歳児がもう一つケーキを作ってくれたことで楽しい雰囲気生まれ、次第に子どもたちが集まってケーキパーティーになりました。

他クラスの子の存在に気付き、遊びに興味を持ったり真似したりする姿があります。日常の遊びを通して異年齢での関わりを楽しめるように援助していきます。

～3・4・5歳児クラス～

5歳児クラスにあるゲームや玩具が魅力的で、3・4歳児が毎日遊びに来ています。ある日、3歳児がパズルをやり始めましたが、ピースが細かくてなかなか完成することが出来ません。すると、5歳児が「手伝おうか」と声をかけ、一緒にパズルを完成させると3歳児は「ありがとう」とお礼を言います。その言葉を受けて5歳児が返した言葉は「パズル名人だから また言って」と何とも頼もしいものでした。5歳児に助けってもらったことに安心し、それ以降、3歳児が「手伝って」とお兄さん・お姉さんを頼る姿も見られるようになりました。

フリースペースでは、4歳児の遊びの姿が変わってきました。以前は平面的だったカプラや積み木の作品が立体的になり、友達と一緒に大きなかまくらを作ったり、積み木や線路を使って高速道路や高架線路、街、動物園などを作って遊びを広げています。毎日5歳児が作って遊んでいる姿を見て“同じように作ってみたい”“やってみよう”という気持ちになって真似することから始まり、子どもたちの遊びの成長につながりました。

今後もクラスの垣根を越え、年上の子に憧れたり真似したり、年下の子に優しく接するなど、お互いが刺激し合える経験をたくさん持てるようになっていきます。

